

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078300169		
法人名	社会福祉法人 立花福社会		
事業所名	グループホーム フラワーハイム		
所在地	福岡県八女市立花町下辺春5460番地1 (電話) 0943 (37) 1613		
自己評価作成日	平成 31 年 4 月 19 日	評価結果確定日	令和 元年 8 月 2 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

法人理念「尊厳」のもと「フラワーハイム」では、お一人お一人の個性を尊重した支援を目指す。「目配り、気配り、心配り」をモットーに入居者様が毎日の生活に「生きる楽しみ」や「共に生活することによって生活に充実感を感じて頂き、このホームを「自分自身の居場所」としていけるようサポートしていきたいと思う。また、職員自ら創意工夫し、安全・衛生面に配慮しながら入居者様の日常生活及び人生経験を重んじ、笑いの絶えない「わが家」のような暮らしをサポートしていきたいと思う。入居者様の生活スタイルに合わせ、地域との交流を行い、自立支援のための介護を提供していく。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 元年 5 月 17 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

梅林と竹林に囲まれた山間にあり、事業所の敷地内では桜の花見を行うなど事業所名同様フラワーハイムである。同法人の特別養護老人ホームとデイサービスセンターに隣接しており、家庭的な雰囲気の居間からは新緑を間近に眺めることができ、季節の移り変わりを肌で感じることができることで日々穏やかに過ごすことができている。利用者や家族の思いを丁寧に聞き取って、一人一人の生活支援に活かしている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念である「尊厳」をもとに基本方針並びに部門目標を各スタッフと共に協議の上で掲げ、毎日の朝礼時に唱和して確認しながら、実践に努めている。	事業所独自の理念があり「地域に愛され、利用者、家族、地域と共に歩いていく」との思いで理念をつくり、職員間で共有し実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議や地域の行事への参加並びに秋祭り等の園の行事を通じ、地域の方との交流を行っている。	地域の古くから行われている祈願祭や季節の行事で左義長や観梅会に利用者と一緒に参加したり、事業所主催の秋祭りや敬老会に地域住民へ声かけし交流をしている。近隣の小学生や中学生、高校生や市の職員の体験学習も行っている。隣近所の方が竹の子のおすそ分けをする交流も行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主催の介護予防教室等に協力する体制を整えながら、研修生や職場体験等の要請があれば、いつでも可能な限り受け入れる予定である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回（年6回）、市職員・区長・民生委員・家族・入居者・施設長・スタッフが参加して、事業報告及び運営状況の報告を行い、各方面からの助言をいただき、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2か月に1回開催しており、利用者や家族、市職員、地域包括支援センター、民生委員、区長が参加し活動報告を行い、家族から外出行事の要望に対し、毎月バスハイクで季節の花見を実施しサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に地域運営推進会議を通じ、市の担当職員と事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。また、運営に関する疑問や問題点がある場合は、その都度行政窓口に出向き、相談・助言を頂いている。	日頃から市役所や包括支援センターへ電話や訪問をし運営に対する相談をしたり、行政から認知症キャラバンメイトを派遣してもらい、認知症サポーター養成講座を担っている。地域と行政との連携を行い、サービス向上に活かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2カ月に1回、地域運営推進会議終了後に身体拘束廃止委員会を開催して、現状の取り組みを報告している。また、4カ月に1回、フラワーハイムのみで、身体拘束廃止委員会を開催して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	日中玄関は施錠せず玄関に鈴を掛け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員に身体拘束禁止の認識を持たせるために、内部研修を行っている。居室は施錠はせず、鈴やセンサーで利用者の外出傾向を把握し、見守りを行い自由な暮らしを支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員一同、虐待により利用者の尊厳が損なわれることがないように注意を払っている。研修会に参加し、理解を深めて虐待防止への意識を高めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要とされる利用者への助言を行える体制を整えている。	職員は成年後見制度について、契約時に入所担当者より家族へ説明を行いパンフレットを渡している。職員は内部の研修で学び理解を深め、活用ができるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時には、契約書・重要事項説明書に沿って解りやすく説明を行い、納得・ご理解を得た上で、契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に本人や家族に対して相談苦情への窓口の説明を行い、重要事項説明書をホーム内に掲示し、ご意見箱を設置することで、ご希望やご意見をしっかりと受け止め、適切に対応している。	利用者や家族が運営推進会議に参加するなど、利用者へのコミュニケーションを日頃から充実させ、居室での聞き取りや、家族の面会時に思いをくみ取るなど、本人と家族の意向を確認共有している。「母へ字を書かせて下さい」という家族からの要望に対し、利用者が書いた年賀状を家族へ送ったり運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ケアカンファレンスを開催し、職員間の意見交換や情報共有を図り、日頃より発言や提案がしやすい職場環境つくりにとりくみ、仕事への意欲を高めるよう努めている。	管理者は全職員の意見を聴き、自己評価に取り組んでいる。毎月行うケア会議や朝礼時、個別に声かけを行い、職員から意見を聞く機会を設け、気づきやアイデアを取り入れ、運営に反映している。異動の場合1か月前に辞令を出し、引継ぎ等に支障がないように工夫している。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人運営者は、職員一人ひとりと面談を持つことで、日頃の努力や実績を把握し、向上心を持って仕事を行えるように配慮し、資格取得や経験年数に応じ、昇格・昇進を行うことで意欲を持って働けるよう取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>人権については、施設内研修を行い、職員全員の人権が充分尊重されるよう配慮を行っている。職員の募集や採用にあたっては、介護職の経験や資格及び人間性を重視している。</p>	<p>法人代表者が職員採用の面接を行っているが、年齢や性別で排除しないようにしており、70歳代の職員の採用も行っている。法人全体で働きやすい職場環境づくりに努め、安心して働くことができるように取り組んでいる。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人内でも研修を実施し、職員に対しての人権教育・啓発活動に力を入れている。</p>	<p>人権教育に取り組み内部研修を行っている。利用者に対する人権尊重のために、排泄時は声の掛け方などプライバシーに配慮したり、個別ケアを意識した環境を整え、人権教育や啓発活動に取り組んでいる。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の資格・力量に応じた研修研修を受講できるよう体制を整えている。また、法人主催の研修会を開催し、スキルアップに努めている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム部会や八女市市域密着型サービス連絡協議会を通じ、同業者との交流や情報共有を図り、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービスを導入する段階で、先ず本人との関係性を築くために、本人の困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人が安心して下さる良い関係になれるよう努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>家族の立場に立って、家族の話をしっかり聞き、本人と家族の思いの違い、家族同士の中での違いも含めて、家族全員の気持ちを受け止めて良い関係を築けるよう努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人と家族等が、現在一番必要としている支援を見極め、他のサービスも含めた対応に努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯物たたみ、食事の準備や片付けなど、一人ひとりの現有能力を見極め、力を発揮できる機会を提供している。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から家族と連絡を取り、ご本人の生活状況を理解して頂いている。又、必要に応じて協力を仰ぎ、ご本人と一緒に支え合えるよう努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知り合い等が面会に来られた時は、ゆっくりとお話ができる環境作りを心掛けている。馴染みの場所へお出掛けする機会も提供し、馴染みの関係が途切れないよう努めている。	職員は利用者の思い出の場所や馴染みの人等を家族に確認し、把握している。関係が途切れないように、友人との面会や電話を掛ける機会などを設けている。希望があれば職員と出掛けて行き、関係継続の支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係を十分に把握しトラブルが生じないよう配慮している。トラブルが起こった際は双方の意見を聞き、お互いの関係が誤った方向へ進まないよう適切に対応している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族からの要請があれば、必要に応じて相談等を継続している。他施設・医療機関へ移られた場合は、サマリー等で情報交換を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様との日頃のコミュニケーションや表情など見て利用者本人の視点でニーズを把握できるように努めている。把握困難な場合は本人の視点に立って検討を行っている。	ご自身で思いを口に出来る利用者については、丁寧な聴き取りを通して本人の意向を把握している。ご自身で思いを表現できない利用者についてはご家族訪問時等に、ご家族から積極的に聴き取りするよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様の協力の下、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、サービスの利用経過などを把握し、本人との会話の中からも、その他の習慣等の情報収集に努めスタッフ間での情報共有を図っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケース記録にて、一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態の把握に努め、毎月のケアカンファレンスでは、モニタリングを兼ねて総合的に現状把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやサービス担当者会議を通じ、本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、ご家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した介護計画を作成し定期的に見直しや振り返りを行なっている。	毎月のケアカンファレンスで各利用者の生活状況について検討している。本人の思いや本人の生活状況に添った介護計画となるよう、家族や関係機関と連携しながら、課題解決へ向けて確実に支援する仕組みがあり、実際にその流れに沿って支援が提供されている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、気づきなど、毎日のケース記録や掲示板に記入し、スタッフ間で情報を共有しながら実践やケアプランの見直しの参考にしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに応じ、かかりつけ医との連携や重度化対応など柔軟な対応での支援に努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状で支障なく利用者を支えることができている。今後、必要に応じ、地域資源を活用できる体制を整え、協働し支えていけるよう努める。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医とは連携を図り、情報共有を行っている。体調変化時には速やかに報告し、指示を仰いで対応を行い、症状の悪化を防ぐよう支援を行っている。	入所時に事業所の医療提供体制について説明がなされ、利用者・家族の選択により入所後の掛かり付け医が選ばれている。利用者家族が受診を支援する約束であっても、時々の事情で家族の支援が得られない場合には事業所が受診を支援している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯で看護師を配置し、不在の際は連絡を取れるよう体制を整えている。急変時や介護職が疑問に思うことは、直ぐにアドバイスを受け、対応を行っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には速やかに情報提供を行い、病院スタッフとの関係作りを行っている。また、訪問や電話による状態確認などの情報交換を行い、早期退院に繋げられるよう努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合の指針を示し、確認を行っている。終末期は、本人・家族と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針の共有を行っている。必要に応じて主治医を交え、カンファレンス等を行いながら方針確認し、支援を行っている。	入所時に、事業所の重度化や終末期体制について説明がなされ、利用者・家族から同意を得ている。その後、折りに触れて、特に重度化傾向が見られた後は利用者・家族と随時話し合いの機会を持ち、思いを聴き取りし、必要な対応をしている。関係医療機関へは適宜情報提供し、指示を得て対応している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤1名のため、同一法人の夜勤者・宿直者からの応援体制を整えている。また、研修会等を通じ、職員は応急手当や初期対応について学んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体で年2回の避難訓練を行っている。また、所轄消防署の職員に訓練を見ていただき、改善点の指摘があると速やかに改善を行っている。地域の方とは、地域運営推進会議の際に連絡方法や応援体制について確認し、協力体制を整えている。	火災対応の避難訓練は夜間想定も含め、年2回行われている。食品や飲用水の備蓄は確保されている。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個別対応を基本理念とし、利用者の気持ち・誇り・プライバシーを損なうことがないように声掛け・対応を行っている。また、法人全体の研修に於いて、職員の意識の向上を図り、利用者の誇りやプライバシーに配慮を行っている。	法人の理念が利用者の「尊厳」であり、一人ひとりの尊重やプライバシー保護については研修を通して周知徹底を図っている。また、日頃のスタッフの言葉遣いや対応が不適切な際には、気付いたその場で指導している。家族来訪時の面談は各自室で行っている。	入浴時等のプライバシー配慮についても、今後期待する。
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望など自己決定の場面では、傾聴を心掛け、希望など意思を示しやすい環境作りに努めている。表情や会話からも意向や要望を察し、本人の希望に添うよう対応している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを大まかに組んでいますが、利用者一人ひとりの生活のリズムに合わせて、その場その場に対して臨機応変に対応し、利用者の意思を尊重しながら支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については、家族に準備して頂き、更衣の際は利用者自身に好みの服を選んで頂いている。訪問美容は、2カ月に1回訪問して頂いて、散髪して頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べやすいようにカットしたり、雰囲気配慮した盛り付けをして、同じテーブルで会話しながら食事が楽しい時間になるよう努めている。また、利用者と一緒にテーブルを拭いたり、後片付けを行っている。	テーブルには生花が置かれている。ご飯茶碗は個々の食事量に応じて要している。湯飲みは利用者個々のイメージに合わせて用意している。食後、食器を片付けたりフロアを掃除したり、利用者は思い思いに携わっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の管理栄養士による献立にて、一日1,400kcal前後の食事量を提供し、摂取量を把握している。水分は毎食前に摂取と10:00と15:00のおやつ時、及び希望時に支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。出来ない方は介助に行っている。月に1回の訪問歯科にて口腔状態確認、必要に応じ口腔ケア指導を受け対応している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンが違う為、各自排泄チェックを行い、個々の排泄リズムに応じ、トイレの声掛けや介助を行なっている。	「尊厳」の理念に立ち、トイレで排泄する生活を支援するために、排泄チェック表を活用したケアを行っている。排泄用品も個々の状況に応じて、種類・使用法等個別に使用している。失禁の際にはトイレではなく、自室に案内して清拭・更衣している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリ体操や毎食前のお茶の摂取と10:00と15:00の水分摂取を実施している。排便状況に応じ主治医への報告行い対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	本人様の体調に合わせて、好みの湯量や温度にて本人のペースに合わせて入浴を実施している。本人の希望がある時も実施している。	お風呂は毎日沸かしている。基本夏場は週3日、冬場は週2日の入浴を行っているが、この他にも希望があれば対応している。浴室は明るく、窓の外には青々とした緑濃い風景が広がって気持ちよく入浴できる。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンを把握し、ご本人の状態に合わせて生活のリズムを整えるよう努めている。不眠の場合にも、午睡や本人のリズムに合わせて休息をとって頂いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2週間に1回の往診にて看護師による服薬管理を行なっている。又、処方変更の場合は、その都度スタッフ間で情報共有行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や好みの把握を行い、ぬり絵やカラオケ、絵本等、個々に応じた支援を行なっている。また、本人ができる範囲でリハビリ体操、バスバイクや散歩等行い気分転換や楽しみの機会を提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣の散策や外出支援などは天候や体調を考慮しながら支援を行なっている。また、バスバイク等、入居者様の意向を参考になるべくご希望に添うよう配慮行っている。面会時や電話連絡などでご家族様には報告行っている。	季節の花を観たいという利用者の希望に応じて、バスバイク外出計画を立てている。散歩は毎日、ドライブは月1～2回行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては、出来る限り所有していただく事が望ましいと考えているが、認知症状進行に伴い金銭管理面が難しく所持していただいていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時の電話の代行支援や年賀状等を書いていただく機会を提供し、ご家族や大切な方との交流が継続出来るよう支援行っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方々にとって不快な音や光が入らないよう配慮し、利用者の貼り絵などの作品を提示したり季節の花々を飾るなど共有スペースが心地良いものとなるよう努めている。	全面床暖房となっている。食堂を兼ねたフロアは明るく、風通しもよく清潔に保たれている。利用者は日中、思い思いにソファに座って過ごしているので、フロアには落ち着いたBGMを流している。フラワーハイツの名にふさわしく事業所内外に花を絶やさないよう心がけている。トイレは廊下から少し奥まった場所にあり、フロアから見えない。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デイルームには、ソファやテーブル、椅子を配置し、利用者同士の交流が持てるよう配慮行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や好みの物をご家族の協力を仰ぎ配置して頂きご本人にとって居心地良く過ごせるよう配慮している。	入所説明の際に、私物の持ち込みが可能であること、出来れば本人の好みに合わせた馴染み易い部屋を設えて欲しいとお願いしている。ベッド位置も含めて部屋の設えは本人・家族に任せている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ等要所要所に手すり設置し、個々の身体状況に応じた福祉用具の導入など安全面に配慮し下入能力を活かせるよう支援行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない